



中期経営計画（令和4年度～6年度）

Resurface R4-6

〈概要版〉

令和4年3月

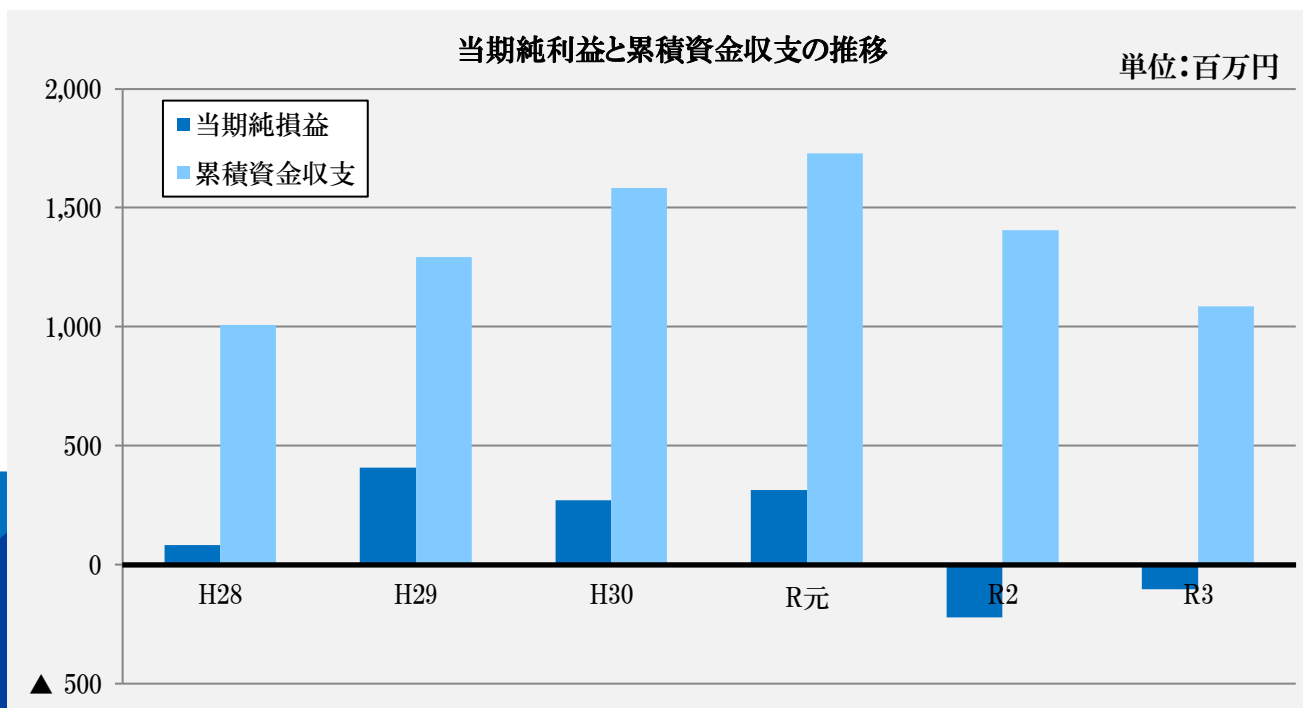
愛知高速交通株式会社

1.当面の課題

(1)単年度決算黒字の早期実現

・当期純利益は、令和2年度～3年度に2期連続の赤字

⇒将来に備えた必要な修繕・設備投資を行っていくためには、早期黒字化の実現が必要

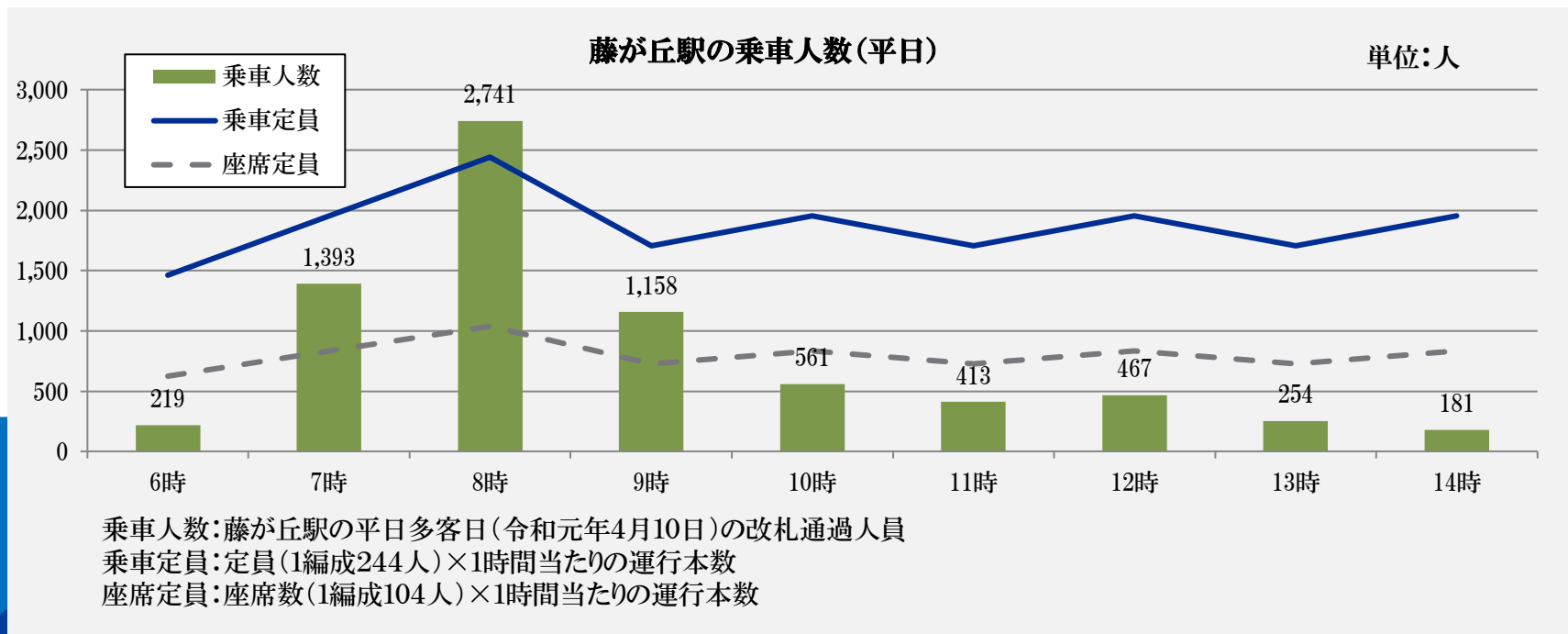


1.当面の課題

(2)ジブリパークの開業に伴う増客対応

・コロナ禍以前の平日通勤通学時間帯は乗車定員を上回る混雑

⇒ジブリパークは5エリア開業時で180万人の来場者を見込んでおり、利用者増加に備え、安心・安全・安定の運行に努める必要がある。



1.当面の課題

(3)新型コロナウイルス感染症対策の継続的な実施

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、現在行っている感染拡大防止対策を状況を踏まえながら、継続的に行っていく必要がある。

当社における主な新型コロナウイルス感染症対策

- 職員のマスク着用等感染予防対策
- 券売機等の定期的な消毒
- 車内の定期的な消毒
- 車内の手すりやつり革の抗ウイルス・抗菌コーティング
- 利用者への情報提供、注意喚起及び協力要請 等

1.当面の課題

(4)新たな課題

①ジブリパーク開業を契機とする地域発展への貢献

利用者増を想定した安全・安定・安心の輸送サービスを提供することに加え、ジブリパークを活かした地域の魅力づくりに向けた取組への協力が求められる。

②車内の安全対策

車両内で人為的に起こり得る不慮の事件から利用者の安全を守ることを想定した予防措置・対策が求められる。

2.基本方針

【基本方針】

令和4年秋に予定されているジブリパーク開業に際し、安全・安定・安心の輸送サービスを提供し、新型コロナウイルス感染症の影響下においても早期の単年度黒字を実現する。計画期間内に資金不足は発生させない。

【期間】

令和4年度～令和6年度(3ヵ年)

【サブタイトル】

Resurface R4-6

※「Resurface…再浮上」

3.数値計画

(1)輸送人員

令和4年度以降、徐々に回復を見込み、ジブリパーク開業による利用者数増加と合わせ令和6年度に9百万人を超える。

(単位:千人)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
定期外	3,145	3,808	3,984
通勤定期	1,502	1,502	1,502
通学定期	3,189	3,590	3,590
合計	7,836	8,900	9,076
1日平均	21,500人	24,400人	24,900人

3.数値計画

(2)損益状況

営業収益は令和6年度に16億円台を回復し、営業利益は計画初年度より黒字化を見込む。

(単位:百万円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
営業収益	1,379	1,591	1,633
営業費用	1,362	1,477	1,479
(うち修繕費)	(355)	(378)	(345)
営業利益	17	114	154
経常利益	78	125	165

3.数値計画

(3)累積資金収支

計画期間中に13億円の設備投資を見込むため、単年度収支は令和5～6年度赤字となる。それでも最終年度末の累積資金収支は5億円を確保する。

(単位:百万円)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
当期純利益	76	123	163
設備投資(▲)	▲131	▲720	▲444
減価償却費	64	152	180
単年度収支	9	▲445	▲101
累積資金収支	1,095	650	549

4.重点取組事項

(1) ジブリパーク開業への対応

令和4年秋に開業するジブリパークのメインアクセスとして、全ての利用者が快適にリニモを利用できるように最大限の取組を行っていく。

また、車両ラッピング等ジブリパーク開業に向けた機運の醸成への協力、ジブリパークを活かした広告の販売促進等を行っていく。

4.重点取組事項

(2) 安全・安定・安心の輸送サービスの提供

安全輸送の要である信号システムや鉄道システムの神経系である通信システムなど総額13億円の設備投資を計画。

故障対応能力向上のための訓練の充実や整備スキルの向上に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症対策を引き続き実施し、感染防止に努める。

車両内での傷害事件対策として、防犯カメラの設置や訓練の実施等の対策を検討していく。

4.重点取組事項

(3) マイレールとしての地域発展への貢献

県や沿線市が実施するウォーキングイベントやスタンプラリー等への協力、社会見学の受け入れ、MaaSなどの新たなサービスへの積極的な情報提供等を通じて、マイレールとして地域発展に貢献できるよう取り組んでいく。